

人権だより

考えよう 相手の気持ち 育てよう 思いやりの心

市川市立第三中学校
令和7年3月12日発行
(第11号)

戦争は重大の人権侵害です

2008年、2009年、2012年、2014年、そして2021年と、イスラエル軍は逃げ場のないガザに大規模軍事侵攻を行いました。2014年の軍事侵攻では、過去2回をはるかにしのぐ激しい攻撃が、空、陸から51日間にわたって行われました。

2021年5月には11日間にわたって空爆が続き、多くの女性や子どもを含む民間人が犠牲になりました。停戦後の現在も破壊された町の復興は遅々として進んでいません。

人々は、いつまた繰り返されるかわからない戦争の恐怖を抱えながら生活しています。

ロシアによるウクライナに対する軍事侵攻の開始から3年余りが経過し、未だ停戦の兆しが見通せない状況の中、多くの尊い命が奪われています。今も多くの人たちが避難し、食糧難に陥り、ロシア軍の攻撃に怯えながら暮らしています。何の罪もない人たちが、苦しんだり悲しんだりしている連日の報道を目にするにつれ、本当に心が痛みます。

戦後80年を迎えようとするときに、まさかこんなことが起こるとは思いもしませんでした。ただ、第二次世界大戦後も、世界各地では、戦争や紛争が繰り返されている事実を忘れてはなりません。大切な命を奪う戦争は本当に許されることではなく、愚かて悲しいことです。「戦争は最大の人権侵害」です。これ以上犠牲者が出ないことを強く願い、戦争が一日も早く終わることを祈らずにはいられません。

日々の報道などにより、戦争の現実がより実感として伝わってきます。そしてそれは今も続いています。今もこうしている間に、命を奪われている人がいます。このような悲劇を二度と繰り返さないために、私たちは考え行動しなければなりません。一日も早く戦争が終結するとともに、世界中の人びとの人権尊重と平和の実現を強く願います。

戦争という重大な人権侵害に対し、私たちにできることは何でしょうか？地球市民として、今こそ「人権」についてしっかりとした考えを持ち、行動することが大切です。



ガザ地区の残酷な日常



軍事侵攻に対する取り組み(連合)

「心ない一言やめて」相手の気持ちを考えて

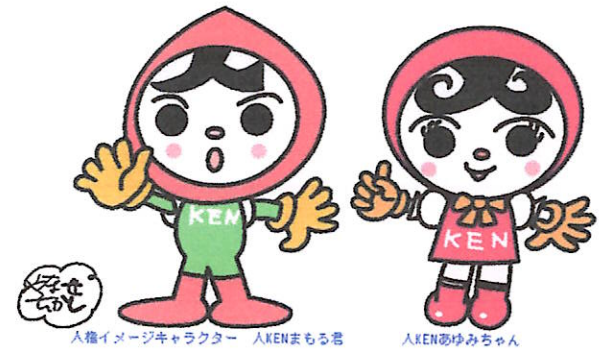
人権は誰にでもある権利です。自分にもありますし、相手にもあります。自分の権利だけ主張していると、知らずに相手の人権を侵害してしまふことになってしまいます。こうならないためにも、「自分がもし相手の立場だったら」と考えて行動することが大切です。

この世の中には、外国人、障害を抱えて生活している人、高齢者、病気を抱えている人など、自分と違う人がたくさん暮らしています。こうした人たちに対して、「ボケ」、「障害者」、「チビ」、「臭い」、「出っ歯」、「デブ」、「男のくせに」など、つい発してしまうその一言でどれだけの人が苦しんでいるのでしょうか。

「人権」について、もう一度考えよう

「人権」ってなんですか？

人権とは、誰もが生まれながらに持っている社会において幸せに生きていくための権利です。しかし、現代でも社会生活の様々な場面で差別や虐待が起きていて、すべての人の人権が守られているとはいえない状況にあります。人間としての誇りを持ち、やさしさと思いやりがあれば、決して起こることのない出来事が社会では起きています。



人権イメージキャラクター 人KENまるる君

人KENあゆみちゃん

学校や職場でのいじめやセクハラ、夫婦やパートナー間での暴力であるドメスティック・バイオレンス(DV)やストーカー行為、児童虐待、高齢者への差別や虐待、障がい者や性的少数者に対する偏見や差別、同和問題、言葉や習慣等の違いによる外国人差別など、これらはすべて人権問題です。

私達が幸せな生活を送るためには、常に人権意識を持って生きることが大切です。子どももおとなも、障がいのある人もない人も、健康な人も病気を抱えている人も、それぞれ自分らしく生きようとするのが、その一歩です。

人権意識とは、自分が何よりかけがいのない尊いものであることに気づき、その大切さを育てることです。そして他の人も、同じ存在であることを認識することです。

人権は誰かが与えてくれるものではありません。私たちひとりひとりがお互いを認め、尊重し合える社会を創っていく努力が必要なのです。

【子どもの人権SOSメール】(24時間受付)
(パソコン、携帯電話、スマートフォン共通)

<https://www.jinken.go.jp/kodomo>

